

三つの方針		具体的目標			
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○主体的に学習活動や学校生活に取り組む態度、社会性、豊かな人間性、課題解決力の育成			
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○生徒一人一人の多様な学習ニーズにきめ細かく対応した学習活動と体験活動、キャリア教育による、生徒の進路希望の実現			
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○基礎学力の向上を目指して学習活動に励み、学校行事、体験活動や交流活動等に積極的に取り組む意欲のある生徒			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科指導	習熟度別授業の充実を図る。	習熟度に応じた学習状況の分析を実施し、指導方法・指導内容の工夫・共有により、学習の理解度を高め、達成感や充実感、学習意欲の向上を図る。 ⑦⑧⑨⑭⑲⑳	A	A	・他教科との連携について、工夫の余地を残しており、3年次の探究学習のベースの知識として、各教科でできることを少しずつでも出し合い、関連付けをすることで、生徒により興味関心を持たせることができると考える。 ・グーグルアプリがバージョンアップしたことで、できることが増えたので、アイデアを出し合い、さらに効果的な利用方法について研究したい。
		クラス編成や評価方法など、運用上の課題を改善する。 ⑦⑧	B		
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。	「できた」という喜びや達成感が味わえる授業、「学び合い」によるコミュニケーション能力をはぐくむ授業、一人一人の実態に配慮した授業を心がける。 ⑦⑧⑩⑭⑲⑳	B		
	ICT機器の活用を推進し、学びに向かう力の育成を図る。	タブレットや電子黒板の活用を推進し、分かりやすい授業展開の工夫を図る。また、教科横断的な学びを心がけ、様々な現象を多面的に捉えられる姿勢や、学んだ知識を活用した課題解決能力を身に付けさせ、自主学習の習慣化を促す。 ⑦⑧⑨⑩⑲⑳	B		
	言語活動の充実を図る。	発表、発言しやすい雰囲気を作り、意見を述べる場面や考えをまとめる場面、要約の実施など、各教科における授業実践の中で、言語活動の充実を図る。 ⑦⑧⑨⑩⑲⑳	A		
授業改善推進プロジェクトチーム	教育目標を達成するために、組織的な授業改善を行う。	相互授業参観や研究協議、校内研修などとおして、生徒に合わせた指導方法を話し合い、授業改善に取り組む。 ⑩⑪	B	B	・積極的な情報交換に努め、よりよい授業ができるようにする。
教科	基礎学力の向上と自ら学ぶ姿勢を育む。	音読を通して、様々な文章に接する中で正確な読みが出来るようにする。 ⑦	A	B	・タブレットを効果的に使った授業方法を共有する。 ・観点別評価を活用し、生徒が自信をもって課題に取り組めるような評価方法を工夫し、教科内でも共有することで教員の負担も軽減する。
		語彙力を鍛え、思考力、判断力・表現力を培う。 ⑦	A		
	様々な文章にふれる姿勢を養う。	図書館を有効に活用し、読書に親しむ習慣をつけさせる。 ⑧	C		
		教材の選定に配慮し、作品に対する興味関心を持たせる。 ⑦⑧	A		
	日常生活における伝え合う力を鍛える。	場に応じた話し方(敬語を含む)を身に付けさせ、適切なコミュニケーションを図るための話す力・聞く力を鍛える。 ⑦	A		
		ICT機器を活用し、教材や情報を共有し、様々な表現方法を身に付けさせる。 ⑨	B		
	個々の到達度を踏まえた授業展開を図る。	個々の到達度を把握し、取り扱う内容や方法を検討し、積極的に授業改善を図る。 ⑩⑪	B		
		生徒に自信を持たせ、学習意欲を喚起する個別指導を展開する。 ⑧	B		
	検定試験に挑戦し、資格取得により達成感を持たせる。 ⑦	B			

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	地歴	わかりやすい授業を展開する。	授業目標に沿った授業計画を毎時間立案する。 ⑦	B	A	・ICT機器を活用した授業を実施し、生徒の興味関心を高める。 ・持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識を育む教育を充実させる。
			授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。 ⑦⑩	A		
		基礎学力の向上を図る。	プリント学習を利用して要点を整理するとともに、生徒自身の振り返りの時間を設け、生徒の理解度を把握する。 ⑦⑧	A		
			学習内容の定着のため、理解が不十分な生徒に対して適宜補習を実施する。 ⑦⑧	B		
		ICT機器を積極的に活用し、地理歴史に対する興味関心を高める。	ICT機器の活用により言語活動の充実を図り、地理歴史に対する興味を持たせる。 ⑧⑨	A		
		写真や映像などを用いて、地理歴史に対する興味関心を高める。 ⑧	A			
	公民	わかりやすい授業を展開する。	授業目標に沿った授業計画を毎時間立案する。 ⑦	B	A	・ICT機器を活用した授業を実施し、生徒の興味関心を高める。 ・成年として生きていくための知識や社会参画意識を育む教育を充実させる。
			授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。 ⑦⑩	A		
		基礎学力の向上を図る。	プリント学習を利用して要点を整理するとともに、生徒自身の振り返りの時間を設け、生徒の理解度を把握する。 ⑦⑧	A		
			学習内容の定着のため、理解が不十分な生徒に対して適宜補習を実施する。 ⑦⑧	B		
		ICT機器を積極的に活用し、公民に対する興味関心を高める。	ICT機器の活用により言語活動の充実を図り、公民に対する興味を持たせる。 ⑧⑩	A		
		写真や映像などを用いて、公民に対する興味関心を高める。 ⑧	A			
	数学	基礎学力の向上を目的とし、個に応じた指導を心がける。	習熟度別クラス担当者間の連携を深め、定期テストや基礎力診断テストなどの結果について分析・共有して、個別最適な学びの実践の目指し、フィードバックを活用する授業を展開する。 ⑦⑧	A	A	・タブレットを効果的に使った授業の構築およびデータの共有をすすめる。 ・到達度テストを活用した義務教育内容の定着と高校数学基礎内容の両立した指導を継続して実施。 ・毎時間のフィードバックを活用した、個別最適な学びができるような授業展開の構築。
			基礎・基本がなかなか身につかない生徒や成績上位者に対して、必要に応じて個別指導をおこなう。 ⑧⑩	A		
		学習意欲を高め、わかる喜びを実感できるように授業改善を推進する。	生徒の抱えている疑問や誤りやすい箇所を的確に把握し、学習段階にあった適切な課題を提供し、発展的思考を誘発する。 ⑦⑧	A		
ICTの効果的な活用により、原理・法則の良さや有用性、定理や公式の汎用性に気付け、数学を学ぶ意義が見出せるように工夫する。 ⑦⑧			B			
学習指導要領に応じた指導と評価を行うよう努める。		言語活動や体験活動を取り入れた学習場面をつくり、主体的な学びを援助する。 ⑦	B			
		新しい観点別の評価のためにこれまでの工夫に加えて授業ごとに振り返る場面を設けて、生徒の学びを援助できるような評価を行う。 ⑧	A			

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
教科	理科	生徒の視点に立った授業を展開する。	生徒の理解度、興味関心を確認しながら、理解しやすい授業を展開する。	⑦	A	A	・スタディサプリを活用した個別指導の実施。 ・日常生活と関連づけ、探究の過程を踏まえた授業を継続して実施。
			授業終了後に指導内容を振り返り、その反省点を次の授業の改善に活かす。	⑦	A		
		基礎学力の向上を図る。	プリント学習とプレゼンツールを利用して、要点を整理するとともに、生徒の理解度を確認して、基礎的基本的事項をしっかりと理解させる。	⑦	A		
			学習内容の定着のため、理解が不十分な生徒に対して、必要に応じて補習を実施する。	⑦	B		
		自然に対する興味関心を高める。	生徒実験の実施回数を増やし、演示実験などを効果的に用いて、自然の事物や科学的現象に対する興味関心を持たせる。	⑦	A		
			電子黒板やタブレットを活用して映像やデータなどを提示し、自然の事物や化学的な現象に対する理解を深める。	⑧⑨	A		
	授業改善	生徒の現状を踏まえ、生徒の興味関心や能力に基づいた授業を展開し、授業公開や研究協議の充実を図るなど組織的な取り組みを行う。	⑩⑪	A			
	保健体育	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深める。	身の回りの健康問題について、疾病との関連や社会への影響など関連づけて指導する。	⑦⑧	B	B	・タブレット等のICT機器を使用した授業事例を教員間で共有し、より良いICT活用に結び付ける。
		個に応じて体力を全体的に高めるようにする。	スポーツテストの結果を活用し、それぞれの体力レベルにあった補強運動を定期的に取り入れる。	⑦⑧	B		
		基礎体力・運動能力の向上を図る。	各領域と関連づけた体づくり運動を毎時間取り入れ、仲間とコミュニケーションを図りながら、運動量の確保に努める。	⑧⑩	C		
			各領域において、楽しく運動をおこなえるよう、公正公平な態度で積極的に授業に取り組む生徒を増やす。	⑧⑨	B		
	自らの健康を適切に管理し、改善する能力を育てるように授業改善を実践していく。	タブレットやICT機器を活用して自らの運動課題を発見し、改善する方法を考えさせる。	⑨⑩	C			
	芸術	芸術を愛好する心情を育て、より深く芸術を味わう。	個に応じた指導により、基礎・基本の定着を図る。	⑦⑧	A	B	・タブレットや電子黒板などのICT機器の活用を充実させ、より分かりやすく、深い学びに繋がられるようにする。 ・様々な芸術分野、多くの芸術作品に触れさせることで、感性を高め、豊かな情操を養えるようにする。
			タブレットやICT機器の活用により、より分かりやすく、活動しやすい形態を目指し、深い学びに繋げる。	⑧⑨	A		
		芸術的感性を高め、豊かな情操を養う。	様々な芸術分野に触れさせ、その経緯や時代背景への理解とあわせて芸術的感性を高める。	⑥⑩	B		
			鑑賞活動を取り入れ、多くの芸術作品に触れさせることで豊かな情操を養う。	⑤⑥	B		

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
英語	英語	個に応じた指導を充実させ、義務教育段階での学習内容の確実な定着と基礎学力の向上を図る。	習熟度別学習による少人数指導によって生徒個々の能力に応じたきめ細かな指導を行い、各生徒が抱えている得手不得手や理解度などの傾向を分析し学習内容の定着に努める。	⑦⑧ A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 2学年では習熟度別学習を継続しており、それぞれの生徒の学習定着度を見ながら授業を進めることができた。 ・ALTとのTTについて、多くの生徒が積極的に交流しようとしているが、1クラス当たりの関わる時間が短く、イベント的になってしまう課題もある。 ・ICTの活用について、教員の負担軽減をするためにもより積極的に活用する必要がある。 ・特に成績下位の生徒に関しては4技能を学習させられるだけのキャパシティがなく、話すこと、書くことの領域に関しては定期的かつ有効な学習がなされていないのが現状である。
		言語活動を通して、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	授業でのグループ活動やペアワークを通して英語でのコミュニケーションや言語活動に対する興味を持たせ、主体的な態度を育成する。また、ALTとの交流を通して異文化をもつ人々への関心や興味を引き出す。	⑦⑧ B		
			紙媒体の教材も併用しながらも、電子黒板やタブレットを活用し活動内容に応じて効果的な授業教材を提示する。	⑦⑨ ⑳ B		
		指導に関する検証改善サイクルを確立し、より分かりやすく内容を定着させるために授業改善を図る。	科全体で授業目標やねらいを明確にした上で単元ごとの内容や活動について綿密な計画を作成し、実行する。	⑦⑧ B		
			4技能を伸ばさせるための言語活動を、生徒一人一人の能力や特性に合わせた形式で実行する。	⑪ A		
			授業内容や教材について担当者間で共有をし授業を実施する。また、定期的に授業内容や指導を振り返る機会を設け、科全体で情報を共有して次の授業に活かす。	⑨㉒ A		
	家庭	ICT機器を活用し、日常生活に必要な知識や技術を身につけさせる。	ワークシートや学習ノートを使用し、定期的に内容の確認をすることで知識を定着させる。	⑦ B	B	中間テストを実施しないため、ワークシートの確認や、小テストを実施することで知識を定着させる。 消費生活の問題については、実生活、日常生活に即している内容なので、スマホやタブレットを使いクラスで共通しながら学習していく。
			電子黒板やタブレットを活用し、視覚教材を多用した被服実習や調理実習を数多く体験させ、基礎的な技術を習得させる。	⑦⑨ ⑩ A		
			授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。	⑦⑩ B		
		生活の中から課題を見つけ、創意工夫し生活の向上を図る。	ホームプロジェクトを実施・発表させることにより、生活の質を向上させ、家族のコミュニケーションの深化を促す。	⑦⑧ A		
		消費者問題や環境問題などの身近な問題について考えさせる。	消費生活の問題について学習し、早期解決法を習得させる。	⑦ B		
			資料集やタブレット、電子黒板を活用し、班別に調べたり発表したりすることで、問題意識を持たせる。	⑦⑨ ⑩ A		
情報	コンピュータの基本的操作の習得を目指す。	情報検索技術や主要なソフトウェアの操作等、基本的な情報技術を習得できるよう計画的に指導する。	⑨⑩ B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホやタブレットの使い方について、TPOに応じた使い方について、更に意識させる必要がある。 ・タブレットを有効に活用できる教材研究に努める。 ・デジタルシティズンシップを柱にしたリテラシー教材の研究をさらにすすめる。 	
		基本的なキータッチの指導を行い、正確で迅速な入力操作を目指す。	⑨ B			
	情報モラルの定着に努める。	視聴覚教材などを利用し、情報モラルの理解に努める。	③⑥ A			
		調べ学習を通して、実生活で起こりうる著作権侵害などの問題を把握させる。	⑥ A			
	デジタルシティズンシップについての理解を共有し、情報社会への参加のために必要な能力を養う。	コンピュータや情報配信ネットワークの正しい利用を促すため、視聴覚教材・ソフトウェア・インターネットを効果的に組み合わせて指導する。新しいテクノロジーがもたらす機会を考慮し、情報に基づいた選択ができることを目指す。	⑬ B			
		各種研修会に参加して、自己研鑽に努め、教材や指導法の工夫など、日々授業を改善しながら、情報社会への参加のための効果的な指導ができるようにする。	⑪⑲ ㉓ A			

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
教科	福祉	基礎学力の向上と社会福祉に関する基礎知識の習得を図る。	教科書やプリント、タブレット等を使って、わかりやすい授業を展開し、自分の考えを文章にまとめたり発表する機会を通して社会福祉の意義や役割を理解させる。また、授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。	⑦⑧ ⑨⑩	B	B	受け身の授業ではなく、自分たちで介護についてのアイデアをだしたり、意見交換をしてりして、活動的な授業にする。
		人間としての尊厳の認識を深め、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。	車イスの介助体験や障害者体験（体の不自由な人の体験）などの実習や総合的な探究の時間と連携した外部施設での体験を通して、幅広く社会福祉を学ばせる。	⑤⑥ ⑬	A		
教務	学校行事の精選と、効率的な行事の運営を促し、働き方改革を推進する。	月初めに2か月先までの行事予定案を提出し、円滑な運営を目指す。		⑳㉑	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人特例入学の生徒など、日本語が不得意な生徒に対する対応について、検討が必要。 ・観点別評価について、ルーブリックの研究や評価のための状況分析など、年々変わる生徒の変化に対応するために研修等を活用して理解を深める必要がある。 ・学校設定科目について、活動内容を職員全体で共有し、持続可能な形へ修正・改善を進める。 ・課題研究を軸とした、多教科連携の在り方と可能性について校内研修等を通して研究する。
		行事の企画・運営において関連校務部・学年・教科等との調整に努める。		㉑㉒	A		
	教育課程の円滑な実施に向け、より具体的な授業計画の検討や、持続可能なカリキュラムマネジメントの充実を図る。	基礎学力の定着を軸とした、組織的かつ計画的な教育活動に取り組み、学びの基礎診断等を活用したPDCAサイクルの推進を図る。		⑦⑧ ⑨⑩ ㉑㉒	B		
		観点別学習状況の評価を明確にし、きめ細かい学習指導と個に応じた指導の充実を図る。		⑦⑧ ⑨⑩	B		
		学校の将来構想に基づき、身につけさせたい資質・能力の育成を踏まえた新しい教育課程の充実を図る。		⑩㉑ ㉒	B		
	日常業務の改善を図り、働き方改革を推進する。	習熟度別授業や選択授業に対応して、授業交換・填補を円滑に主導する。		㉑㉒	A		
		校務支援システムを用いた、要録・調査書等の処理および、観点別学習状況を踏まえた成績管理等を円滑に行う。		㉑㉒	B		
		奨学金制度の情報を周知し家庭の理解と協力を求め、充実した活用を図る。		㉑㉒	A		
		教科書の採択事務を適正に行う。		㉑㉒	A		
	学校ウェブサイトの更新に務め、積極的な情報発信を推進する。	各校務部や学年等と連携し、積極的な更新作業や、情報発信を心がけ、「地域とともにある学校づくり」の推進を図る。		㉑㉒	A		
	図書および視聴覚教材の充実を図る。	生徒の学習および職員の研修がよりよく進められるよう、図書資料および視聴覚教材の充実を図る。		⑥⑦ ⑩	A		
	図書館の環境整備に努める。	生徒の学習および職員の研修にふさわしい図書館となるよう、図書館の美化や図書の配置等を工夫し、利用しやすい環境を整える。		⑥⑩ ㉑	A		
図書館および視聴覚教室の積極的な利用推進を図る。	授業やHRの中で、施設および蔵書・視聴覚教材の積極的な利用を図る。		⑦⑩	B			

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	生徒一人一人の能力・適性の発見と伸張を図り、進路選択を支援する。	各種の検査等を実施し、能力や適性の診断をすることで、自己の適性を理解させる。 ⑬	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の能力、適性に合った進路先を早めに考えさせ、3年次に生徒それぞれの進路目標の早期実現を図る。 ・「学びなおし」を中心に、各教科で生徒一人一人に対応した支援を行う。 ・ICTを活用した業務の効率化を図り働き方改革を推進する。
		各教科と連携し、進路実現に必要な基礎学力を身に付けさせる。 ⑦⑧⑩	B	
		LHRや総合的な探究の時間を活用し、進路意識を高める。 ⑭⑯	A	
	個人の特性に応じた進路指導により進路意識の確立をはかる。	1年次から進路講演会や分野別学習会を実施し、自己の進路や生き方を考える。 ⑯⑰⑱	A	
		2年次においては、実践的なキャリア教育を実施し、職業観を育成する。 ⑯⑰⑱	A	
		3年次においては、就職・進学に向け、生徒それぞれの進路目標の実現を図る。 ⑯⑱	A	
	ICTの活用による進路情報の充実をはかる。	担任・生徒への求人情報等の開示システムをICTを用いて確立する。 ⑳	A	
保護者への情報提供の場を確保し、HPの更新に務め、積極的な情報発信を推進する。	進路便りを発行し生徒・保護者に配布する。HP係や学年等と連携し、積極的な更新作業や情報発信を心がけ、「地域とともにある学校づくり」の推進を図る。 ㉑㉒	A		
働き方改革を推進する。	業務内容を精選・効率化すると共に、来客者対応についても対応時間の適正化に努める。 ㉗㉘	A		
生徒指導	いじめや暴力のない「安全・安心な明るい学校づくり」に努める。	生徒の変化について早期察知と教員間での情報共有に努め、組織だった対応によりトラブルの未然防止と迅速な解決を目指す。 ③	B	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS関連のトラブルが増加傾向にある。その対策と未然防止に努める。 ・命を守るため、守るべき交通ルールが増えてきている。情報の更新や共有に努める。 ・生徒、保護者、家庭環境が多様化しているため、外部機関（SC、SSW、SL等）との連携して諸問題に対応する。 ・小さなことでも情報を共有して、組織的に対応するように努める。
		二者、三者面談などあらゆる機会を利用し、生徒・保護者・学校が良好な関係を築き、相談しやすい雰囲気がつくれるよう、関連情報を提供し学年団を援助する。 ③④	A	
		生徒会協働の生活委員会あいさつ運動はもとより日頃からあいさつを奨励し、礼儀正しい集団かつ明るく過ごしやすい学校環境作りに努める。 ②⑥	B	
	規範意識や基本的な生活習慣を確立する。	服装容儀指導を毎月実施するほか、授業や校内生活、登下校時において指導していく。改善が見られない場合の段階的指導を積極的に行う。 ①⑥	B	
		授業に参加する姿勢を整えるため、遅刻の段階的指導および授業態度に対する指導を行う。 ⑥	B	
	教育相談体制の充実を図る。	学校だけでは解決が困難なケースについて、専門性を有するスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、課題を抱える生徒の支援をおこなうため、生徒や保護者へのカウンセリングを効果的かつ円滑に実施できるよう、係と担任の間で生徒情報や実施時期について共有に努める。 ③④	A	
働き方改革を推進する。	校務の実態を把握し、内容に応じた電子化やマニュアル化、明確な分担、資料の事前配布など業務内容や効率の改善を図り働き方改革を推進する。 ㉗㉘	B		

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
特別活動	ホームルーム活動をとおして、望ましい人間関係を養う。	教師の適切な指導で、生徒の自発的な活動が効果的に展開されるようにする。 ⑬⑭	B	見通しを持って、準備を早めに行う。 1人の先生に負担が偏ってしまった。そのため、特活部会を週1回実施し、仕事内容を全員で把握する。また、その中で役割分担も行い、先生1人1人の業務量を客観視できるようにする。
		有意義な集団生活を築くために、集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動や、人間関係形成能力を高める活動を充実させる。 ⑬⑭	A	
	生徒会活動をとおして、所属感や連帯感を高め、次世代に繋げる。	ホームルームや学年を超えた異年齢集団による生徒相互の交流を活性化させる。さらに、タブレットを利用した計画・実施や記録を生徒自身がを行い、継続的な活動の一助とする ⑫⑬⑭⑮	B	
		生徒会活動が行われる諸集団において、生徒一人一人が何らかの役割を持ち、充実感や存在感を味わうための援助をする。 ⑮	A	
		望ましい人間観、勤労観、職業観を身につけさせるために、ボランティア活動などの体験的な活動を充実させる。 ⑮⑯	B	
	学校行事をとおして、学校生活に秩序と変化を与え、達成感を高め学校生活の充実と向上を図る。	生徒の学校生活にリズムを与え、折り目を付け、新しい生活の展開への動機付けとなるような行事を実施する。 ⑬	B	
		各行事の教育的意義を明確にし、生徒が協力して活動することにより、達成感を得ることにより、望ましい校風を育てていく。 ⑬⑭	A	
		キャリアパスポートを活用し、生徒自身が自己の活動を振り返る機会を設け、自身の変容や成長を自己評価できるようにする。 ⑲	B	
	働き方改革を進める。	校務の実態を把握し、内容に応じた電子化やマニュアル化、明確な分担、資料の事前配布など業務内容や効率の改善を図り働き方改革を推進する。学校行事及び生徒会活動などをICTの活用で、効率化を図り、作業手順を最適化することに繋げる。新しい手順での学校行事の進め方を構築する。また、ICTの活用で時間短縮やペーパーレス化を図る。 ⑳㉑㉒㉓	B	
	保健厚生	心身の健康保持・増進に努める。	定期健康診断、体位測定、性教育講話や薬物乱用防止講話などを通して、心身の健康の大切さを認識させ、自己や他者の生命を尊ぶ考え方を育む。 ⑥	
円滑な保健室運営及び適切な応急処置・感染症対策により、心身ともに健康で安全な学校生活を送ることができる環境作りを心掛ける。 ⑥			A	
学習環境を整備する。		清掃活動、安全点検などにより、校内の美化・整備に努め、よりよい学習環境をつくる。特に大勢の来客があるときは特別な清掃をする。 ⑥	B	
		暖房器具や空調設備の安全管理を徹底するとともに、温度・湿度・大気中各種濃度の環境整備に十分留意する。 ⑥	A	
災害時の適切な対応の徹底を図る。		防災計画に基づいて地域とともに校内防災に努める。また、防災避難訓練などを通して生徒の安全意識の高揚を図る。 ⑥⑰⑱	A	
保健厚生サービスの充実に努める。		昼食販売業者を確定させ、自動販売機も活用し、生徒が利用しやすい環境を整えるとともに、校内販売が健全な食育に資するよう配慮する。 ⑥	A	
働き方改革を推進する。		グーグルドライブを利用して、部内連絡の効率化を図る。 ㉑	A	

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
渉外	開かれた学校づくりに努める。	PTA総会やPTA行事をとおして情報を発信するとともに、保護者との連携を図る。 ⑳㉔	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動の活性化。 ・PTA広報誌の発行の有無。 ・会費の運用の適正化。
		各支部の円滑な運営をサポートする。 ㉔㉓	A		
		各委員会活動を活性化する。 ㉔㉓	C		
	働き方改革を推進する。	業務偏重を無くし、ICT活用による効率化を図る。 ㉔㉗	B		
探究企画	探究活動を企画・実施する。	学習指導要領の目的を達成するため、高校生活3年間を通じた探究活動を創造する。 ㉔	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、各学年と連携し、1学年から探究の手法や知的好奇心を計画的に培っていきけるよう、活動を充実させていく。
		探究活動をとおして地域や外部機関との連携や協力する体制を構築し、活動内容の具体化に努める。 ㉔㉑ ㉔㉓ ㉕	B		
		各学年と連携し、年間を通じた総合的な探究の時間の活動を充実させるとともに、授業記録を残し今後の活動・授業改善や企画に役立てる。 ㉑㉔ ㉕	B		
	働き方改革を推進する。	課題研究においてICTを活用し、情報の共有化やペーパーレス化などを推進し、業務の効率化を図る。各活動についてより有効で効率的な実施方法を検討する。 ㉗㉘ ㉙	A		
1学年	基本的な生活習慣を身につけさせる。	月初めの服装容儀指導、毎時間の授業におけるチェックシートによる指導のみならず、休み時間や登下校においても、きちんとした身なりを徹底させる。 ①	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者に対して、進学に向けた学習指導、資格取得のための指導の充実 ・外国人生徒に対する日本語指導等について担任の負担軽減 ・服装容儀に加え、休み時間の過ごし方、清掃、言葉遣い、態度等の生活面のフォローが必要
		家庭との連絡を密にし、安易な欠席・遅刻・早退の防止に努める。 ④	A		
	いじめが起こらないような環境づくりに努める。	生徒の観察・挨拶指導・個人面談等を通して、生徒の理解に努める。 ②⑥	A		
		学年内、保健室、保護者等との様々な情報交換を密にするとともに、授業も有効に活用し、いじめや問題行動を未然に防止できる体制を整える。 ③④ ⑥	A		
	基礎学力の向上に努め、自ら学ぶ姿勢を育てる。	習熟度別学習やTT等、指導形態を工夫することにより、基礎学力の定着を図る。 ⑦⑧	A		
		コンピューターやタブレットを活用した学びの進め方を研究し、情報社会で生きるために必要な心構えと情報スキルを身につけさせる。 ⑨	A		
		放課後の補習や個別指導を通して、苦手教科の克服に努める。 ⑧	B		
	進路についての啓発を図る。	進路講演会・バス見学会等を実施し、早い段階から進路に関する意識付けを図る。 ⑫⑬ ⑭⑮	A		
	学校行事や部活動への積極的な取り組みを促す。	各種行事を通して、集団生活を体験させるとともに、集団の中での個の役割を自覚させる。 ⑬⑭	A		
		ボランティア活動への参加や部活動加入を促し、放課後の学校生活の充実を図る。 ⑮⑱	B		
働き方改革の推進を図る。	行事の実態を把握し、実施方法を工夫しながら状況に応じた精選を図る。また、業務の削減や効率化を進め、超過勤務の減少を目指す。 ㉗㉘	B			

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
2 学年	基本的な生活習慣を身につけさせる。	日頃から時間厳守・整理整頓を心がけ、良好な生活習慣の確立に努めさせる。 ①	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導において、おおむね良好な態度で学校生活を送るよう指導することができている。しかしながら、一部の生徒の服装等に問題があるのが課題であり、引き続き粘り強い指導を行う。 ・立哨指導は継続的に行った。特に服装の乱れなど、その場で注意することで適切な声掛けをすることができた。 ・学習面に関して、到達度テストの有効な活用ができなかったのが課題であるといえる。特に事後学習を通して苦手分野の克服など、行うべき課題は多い。 ・学年行事において、特にインターンシップにおいては充実した活動を通して勤労観を養うことができた。 ・修学旅行において、学校行事でありながら私的な理由で不参加を表明する者が多く、行事のあり方に関する指導が必要であると感じた。 ・働き方に関して、ICTを用いた電子上の連絡を活用するなど、利便性を高めることで、業務の効率化を図ることができた。
		月初めの服装容儀指導、毎時間の授業におけるチェックシートによる指導のみならず、休み時間や登下校においても、きちんとした身なりを徹底させる。 ①	B	
		家庭との連絡を密にし、安易な欠席・遅刻・早退の防止に努める。 ④	B	
	いじめが起こらないような環境づくりに努める。	朝の立哨や昼巡回を積極的に活用したり、生徒の観察・挨拶指導・個人面談等を通して、生徒の理解に努める。 ③④	A	
		学年内、保健室、保護者などとの様々な情報交換を密にすると共に、「道徳プラス」の授業も有効に活用し、いじめや問題行動を未然に防止できる体制を整える。 ③⑥	B	
	基礎学力の向上に努める。	学校ICT環境を積極的に活用した学びの進め方を研究し、従来教科の学習効果を高めることに加え、情報社会で生きるために必要な心構えと情報スキルを身につけさせる。 ⑦⑧⑩⑰	B	
		到達度テストを利用した学び直しを目標とする授業を実践し、自己の学力分析をしながら、計画的に弱点を補い、基礎学力を定着させる。 ⑨⑳	C	
		到達度テストの事前・事後指導を通して日々の学習の成果を自己分析させ、小さな成功体験の積み重ねから学習意欲を育む。 ㉓	C	
	進路についての啓発を図る。	インターンシップ実施のための一連の探究学習や、進路学習、地域ボランティア、就業体験(HSコース)を通して、望ましい職業観と勤労観の育成を図る。 ⑤⑮⑯⑱	A	
	学校行事や部活動への積極的な取り組みを促す。	団体行事を感染防止対策を確実に実践することで、できる限り従来の形に戻せるよう、学年全体で意識を高め行動できる力を養う。また、集団としての帰属意識を高める。 ⑬	A	
修学旅行を有意義な教育の機会とするために、SDGs等を題材とした探究学習を交え、計画的な指導を行う。また、学年行事は可能な限り全員参加を目指す。 ⑫⑯		B		
働き方改革の推進を図る。	教員間の連携を密に図り、業務の遂行に必要な情報を共有する。また、業務の削減や効率化を進め、超過勤務の減少を目指す。 ㉖⑳	B		

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
3 学年	基本的な生活習慣を確立させる。	服装容儀指導に限らず、服装面・生活面を振り返る機会を設け、最上級生としての自覚、規範意識の定着を図る。	①② ⑥	B	<p>服装面での注意や予鈴での授業準備をこまめに行う。また、授業開始時の「三和スタンダード」によるチェックを進路指導面・生徒指導面に関連させてしっかり行う。</p> <p>欠席・遅刻、早退の数を増やさないよう、1年次から進路活動に向けた指導や、行事等の不参加者への指導を行う。</p> <p>段階別面接指導の一問一答や入退出に関しては2年次3学期中に完成させ、3年次には実際の面接指導や問答集の具体化をできるように準備する。</p> <p>課題研究の見通しを立て探究企画部や授業担当者との打合せを行い、探究活動や校外調査、外部連携などを計画的に進める。</p> <p>その中で電話のかけ方や、先方との交渉、日程調整や資料のまとめ方、発表の仕方など進路意識の向上へつながるものに変えていく。</p> <p>保護者対応をはじめ、生徒指導上の問題やいじめにつながりかねない事象については速やかな対応、学年での連絡や報告の徹底を行う。</p>
		挨拶・返事、礼儀や言葉遣いを日常的に意識させることで習慣化を促し、卒業に向けて内面の成長を促す。	②⑬	B	
		欠席連絡や、遅刻カードの記入と声かけを厳格化し、欠席・遅刻の増加を抑える。	①④	B	
	いじめにつながりかねない事象の早期発見と、素早く適切な初動に努める。	HRや授業等、生徒の様子や変化に注視し情報を共有する。また、他学年の先生や授業担当者との連携を積極的に行い、生徒理解に努める。	②③	A	
		保護者連絡等についてはタイミングを逃さないよう、学年全体で協力体制を確立し、保護者との連携強化を図る。また、トラブル等の未然防止に努める。	③④ ⑳	A	
	個々の能力に応じた指導を心がけ、基礎学力の向上をめざす。	キャリアタイムやLHR、放課後の時間を有効に活用し、就職や進学に必要な基礎学力や一般常識、面接での受け答えなど対応力を身に付けさせる。	⑭⑯ ⑱⑲	A	
		英語・数学での習熟度別授業や、国語でのTT授業を効果的に活用し、生徒個々の学力向上に努める。	⑦⑧	B	
	課題を発見し解決していくための資質・能力を身につけさせる。	課題研究を通して、課題発見能力や問題解決能力の向上を図り、思考力や相手への配慮など、社会人として必要な資質能力を身につけさせる。	⑥⑳ ㉔	B	
	生徒一人ひとりに応じた進路目標の実現を図る。	キャリアガイダンスや、進路講演会を活用し、キャリア教育の推進を図る。就職・進学に向けた放課後の課外、家庭学習を奨励し進路実現に備える。	⑯⑰ ⑱⑲	A	
		段階的面接指導を工夫・改善し、個に応じた進路目標の実現を目指す。	②⑯ ⑱	A	
働き方改革を推進する。	行事の実態を把握し、行事の精選、実施方法の改善を図る。また、業務分担の工夫や効率化を進め、超過勤務の減少を目指す。	⑳㉓	A		

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分